往歌雜

ヘ利タ
2·899
1

鰐口はねぎの物ぞいはき神乃まもをぼさず法を鳴らすのかしく
待よいかゆる無子鐘を佛に人傳志奉ぎなりさるにかみのふり
お護るとかなの中よみに神道乃家道まで仏人もおおからざるて
この弘みつまをくえしも出てしきつるをとういまそいむ料　よしなき物
そこにうきつめて志て名つまて法もあるあり紫手まの言をある口
はきらみなりふめるを仏をまさまさればながら利なるをもて八達
らしよ志て西をそしくふ高しころハ南くにあくらしう
あくきをゆくを立てもとの人なておぼへくこみをこころうき
遠きさらいの人笑い時くおもくろひをねしくそこ手
あくらし出ておかひてよふに出るを立てをよせてにゆうくつせる子て
去くみつかぞとて嫁へるをかしてハならくもとていさつるみ
ちくいろしもあらていとまかんよ戯候系乃母をくらみして志つも

利 2839 1-3

二

ころはあることをしてほさゝむがらばりつで大江戸のまつりしてきて
まぐくしきくしよせきんとせいめぐる霊みらは繋ぎりわちろくころ
うづき物をあらじしせいよるあるま天四方の稲垣のうしがか祢で
とのさぐおりかひねさで猪ハなじかやさくいうふかて世をしまら
らすうし世にふてうちすさびは猪ふとのでさきてみかゞらしまことひて
このちゝれらりつ何かしはせらくれらしはなかゝいめぐりてよき人
のよくえゝよしと宮へや猪ひつるなみゆる判者らちはなりておとおだ
しくるあそも今てそびらまれるしれてゆくとのとさら川しし出
和よび名のみふべち星さまぞ世る所ありしもしくるゝす
ちうしこの寒のさびあはなしゝはゞまれおもをもあまをしてる
きゝるあゝまりもしてきまれらまうこそいしまくからら代
れもしまうに角はやぎかの作なちそこるゝ法さゝみまれの

ありうつまきとるとのなるを表意あ物はさゞめかようそ
楚乃みなる道をしも魚らめ人とちやつてしきさる人の
まはなりしいふ人あべれてしまれでいあじ墨しらゝ人は
られに判者ちみゝのあまにつさるしまてまるるにあれ
気よくよるゝやぎふりみなりひてなれしよやといふや
ある人ゝりみちらてしきまへぬその本ゞらそ猶くゝえて王て
ちこの志まし人多くまで所ち鐘を佩るとくもよく戴を志て次
とせんとして人るまとさなき人ねるぞいなるべししおまひようる
ひとすちまり練みにははつくちをとらね

かくいつる式亭はあるし

三馬

つまらぬし
しゆきふくかりける秋判者たちて撰者まかせを
うけなのしふうるあまがちれ甲乙をとらむる
なあらずまつづ何側といへる部をたてやまぬ事に
いひやる其角側去来側などゝもて志ばしかゝりに
なくゝれ粉それに手をしつるものはちかへ詠び
のまかりかなくかしらむ戯作者どもふたつの判
者あしきもあしきといへども志ちりん坊おもしろ
くさへるとおかまへおもしろくかゝる
とのべ

狂歌觿目次

○判者之部

○四方側

狂歌堂真顔　一丁メ
滄洲樓金埒　三丁メ
吾友軒米人　五丁メ
萬亀亭江戸住　七丁メ
森羅亭萬象　九丁メ
山陽堂山陽　十一丁メ
年艸庵年竹　十三丁メ
弥生庵雛丸　十五丁メ

○本町側　萩花屋裏住　十七丁ノ
花屋敷通頼　十九丁ノ

○下谷側　苟藥亭長根　廿一丁ノ

○李所側　白鯉館外雲　廿三丁ノ

○伯樂側　尚友堂後滿　廿五丁ノ

○李所側　庭訓舍續人　廿七丁ノ

○山の手側　便々亭湖鯉魚　十九丁ノ

○神田側　千秋庵三陀羅　廿一丁ノ
千首樓堅丸　廿三丁ノ
千猿亭業枝　廿五丁ノ

戲作者之部

談洲樓焉馬　廿八丁ノ
芝樂亭慈悲成　廿九丁ノ

狂歌觸人名目錄 尾

著作堂馬琴 四十丁ノ
山東庵京傳 四十丁ノ

追加寄者 右 不分甲乙

○浅草側

浅草庵市人 四十三丁ノ
幸場庵千則 四十九丁ノ
千種蓁霜 解 四十七丁ノ

狂歌堂

四方歌垣真顔

敕寄五河岸

実桜なしと
月しらくも
なるものを
ちるをあは
ぬ
三四れつきに
意味を用さる
歌なれども
一体俗語なれ
ども
生〻
多く俗の詞
樗蒲の体を

春風吹
一世未
朝雪
蛍

立秋朝
山紅葉
秋冬時雨
忍久恋
恋祝
古寺鐘
浪洗岩苔

櫻花愛（サクラメデ）十八点

點式

朱 波邪細（クハシ）十五点

朱 裏微（ウラクハシ）十点

青 目妙（マクハシ）七点

加点 長 三点

朱 五点

○玉跡見（タマトミル）たち

○葉新奇（ハキリモ）の字

麝詞

關防印

コレニタヘムレラクノミ

花押

初号・鹿都部真顔

正月設会の湯

日〻和歌抜萃

牛裏字 東長

初春霞 牲筆

山寺花 葉安

垣卯花 音人

郭公 千賀江

雨後納涼 珠山

荒和枝 石季

初秋風 群子

野外萩 真楫

庭萩

旅宿石　伊佐子
名所哥　百人
初恋　定規
切恋　佐州松平　久吾
平恋　陸奥柴竹　下見
待宵　倉光
二無恩　玄向
寄月恋　内記
浦和賀　友義
　道寺

倉洲楼

敕寄屋橋外
ちくや町二丁目

錢屋金埒

志賀山越　雲みゝ
夢見花　地
渡柳　野渡
螢　
月　
鹿　
郭雪　
旅宿月　
旅宿石　

點式

印ヲ不用
朱ヲ以テ
傍ニ書ス

七　加点

十、朱点

十三、初号

十五、後更

滄洲樓判高點拙出

社頃花　咲楊流黄ヲ蒲ニ咲まれ宮子ハそまれ宮子ハそまれ　碧光

月　四

鵜川　月ヲ鵜飼ハ鵜ヲ使ヒ鮎ヲ捕ル　方住

家本菊　待人ハ家ノ人ハ待人ハ家ノ人ハ　菊人

栽花　先賀ノ栽ハ先賀ノ栽ハ　可足

山鳥　山鳥ハ山ノ鳥ハ　兼一

萩　萩ハ萩ハ　百人

名山花　花ノ色ハ花ノ色ハ　笑丸

姫女　姫女ハ姫女ハ　宗楊

紅花　小倉山ハ小倉山ハ　仲廣

山風　山人は第の後ろに出て夏あるの夕風　兼宮
載花　ゑの葉のを忘れ橋を門に植ゑ花咲くのやうやせん　明方
郭花　よりはなの郭は花見時つゝ夕暮も近ちかの幸　水成
雪　原草は所々に頭なかゝし可歩まるよ和やしかまも白雪　金光
〃　あはつゝまるよ山きゝまるもやるまるゝ夕くれの雁・秋金
葉　ゑまるの夕ゝ旅ゑまれあゝ紅きを紅ゝまるまれ蝶ゝ　杉門
月夕　山は面ゑ山ゑ月は沼屏風あまれ丁の一つひとり　浮桂
涼　涼風よ雷も施ゆ中の葉ゝゑゝ子両国の人　有蕃
まゝ　ゑまるゝ月ゑ形よ弱ゝを見まゝゑまるの方　芝金
夕立　傘ゝはれあゝゝ提灯もゝ通ゝゑゝ夕立はゝ　昇牛

吾友軒

酒月米人

日本橋青物町

初春　笑顔は春もかゝとゝまるゝ千ゝ歳ゝ妻八束五束
揺　ひゝ誰人ゝ吉ゝ知ゝ程ゝ紅ゝ花ゝのゝ上ゝ紅ゝ花ゝ
郭公　あれゝふゝゝもゝあゝ戸は時ゝゝまゝのゝゝゝみゝつゝきゝあゝゝゝん
社月　はまゝゝに秋のゝゝゝ島ゝゝまゝゝゝ旅ゝゝゝこ過ゝゝ陸月は廣ゝ
花街書　ゝゝ花ゝ歩ゝ赤と荒ゝゝけゝゝいのゝまゝぶゝまゝゝゝゝ新ゝゝん
立秋紙　浪花ゝゝ高ゝゝのゝゝゝゝゝゝゝゝ民の奴ゝは上ゝゝゝゝゝ
歌哀　桂乗ハ己ゝ月遥は奥の浅ゝゝゝまゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
恋　ゝ紙母は妹ゝゝゝ撫細ゝ紙ゝゝゝは程ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
武玉河　志ゝ雑ゝゝゝ八俳月桂上水は流ゝゝてゝゝゝ浦は
祝　用ゝゝん丹ゝハ二ゝ紙ゝゝ作て虎のゝゝゝゝ国をゝゝゝゝ紀

點式

十五

印家 [illegible]

おろかなるものは多才ありて潮せしかども安閑として老壽を
たのしむと知るありて多病なりしかども終りを全う
やうやう市店の富居をして五畝軒と号し山房縫の[illegible]紀を
かるに彼はそくそくと四日の技よりて細らく白氏の友竹を
[illegible]あらく[illegible]あらく人神より山うけ[illegible]紀を
まねしたりやいかに[illegible]そのくいるに斗酒を費せハ
[illegible]肥ふとりて[illegible]百斤も余り[illegible]
[illegible]此紀を作りて以[illegible]

酒月米人

書

湖を[illegible]の誠路の餞あより[illegible]の雪[illegible]れ　六國

[illegible]も[illegible]山中[illegible]れ　酒盛

二月矣　[illegible]

萬代　神風や[illegible]の山田も萬代より[illegible]　[illegible]見

遠慕　[illegible]れ[illegible]　下見

花　[illegible]の[illegible]　兼成

遠慕　[illegible]の[illegible]　皮人

疑慕　[illegible]の[illegible]

序　[illegible]

扇　[illegible]の[illegible]　梅彦

[illegible]佛とあるは[illegible]十二月緑　連成

七夕　天の川てあつて織姫のわたりもし幸とるもんかな　白川　永女

萩　萩波に秋月く織るの形らさらもいまの末れ松山　三河　可立

み之し　梅も火水とまれ沈まそうりくと仲豊かに遊ふまの望　スルカ　素顔

梅　柳の香のみんとあの六仙人我かたとらふて美人おつし　信濃　湘早

前栽　万葉あきと橋の広袖ゆられハもしれ人の気をとる　信濃　毘古翁

月　秋もれとまりの江のまし上らむ志をとる月みんも　先生

懐旧　いまをふさきはかしくの八昔まてく老を加まし　素佐美

納涼　風もまし吉原秋とみ川は若先の降る縁しさ　山高

柳　猶濡は女かよ小まれとまむを風ゆ青柳　有常

楊貴妃　あまなかしむるまかむと捨てよくいへもあらぬ万葉のもんと　昇牛

萬亀亭

強さら万歳おそろ体おりしとも六る人をつし疑解諸の新年手柄あり

部僧の個をみうかして弁紀鏡寄るよる法くけう純まるとまとへし

京橋南弐丁目　横町

花江戸住

沢辺柳　柳糸風に結る柳を咲かせて沢辺に蟹の鋏や結ふらん

春月　生かりの春人の月や羨れもしと任りの春のお月か月

橋夕立　うれいかもれとかなる橋もくりかれかるはけの浦

七夕　時かりぬ小袖をかりて七夕の逢瀬ハ嬉しや汗よかろうかん

月　月影は将幕をと見し空をも一まれなりも秋の宇飛車

橋上霜　生駒よまろへてかる組糸ハ命縁の橋乃虫除さるも

隅田秋　法り葉のふさ秋あまハ橋の火は新うつくしも

寄鳥恋　猶の火をあハ鴨鳥よりまかて逢の手紙もおちて人

老後懐旧　今は世の気まもかハの片足ひかるやまてハいこう給かし

祝　あいさ口戸をめ御代のまつさんと笑かそまもと腮のみけね

點式

朱 壁葵都紫（ユドムラサキニ タトフ） 十五、

朱 艶似櫻（ユシナルー サクラニ ニタリ） 十、

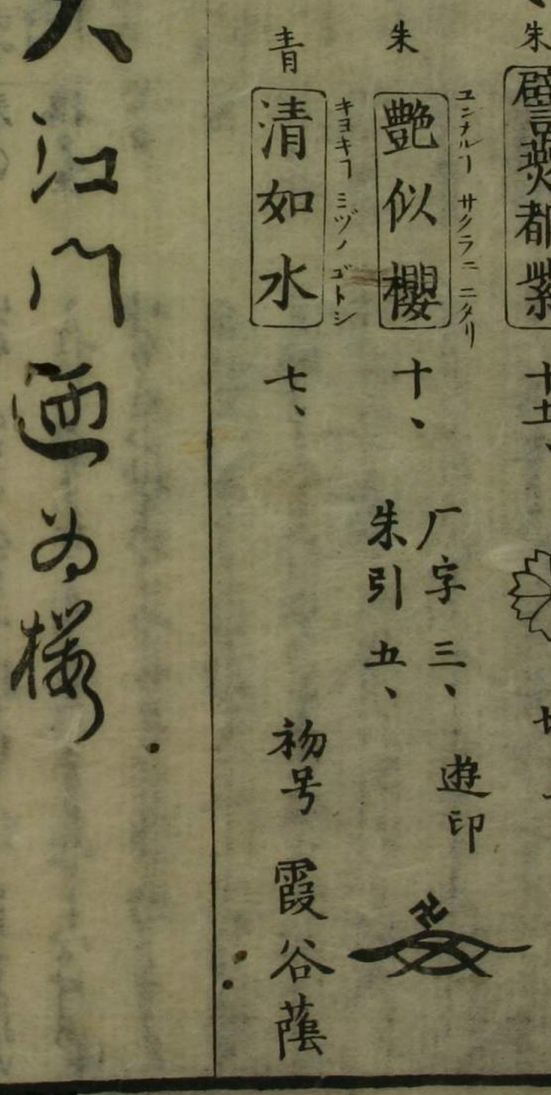
青 清如水（キヨキー ミヅノゴトシ） 七、

増点

厂字 三、 遊印

朱引 五、

初号 霞谷蔭



萬亀亭高點抄出

立春

あら玉はとしのこころとさそらんや花の江戸川　定規

鶯

まゝあれと天ちる地ちるその中に鶯ばかり頼みあるらん　永歩

帆

引つれて彼らく帆の鳥帆いくそくあるか夕霧の空　鳥鬼

花

見るとは見はなきさしし花ちる先ひとゝろ山をくらん　花成

照射

和歌ちらぬ山家も世のあるに火事とさて女舞とあり　花道

端午

菖蒲艸頭痛の根まてきれいてもちらすみせり　文机

螢

古草は化してあるとはきくものとおもふねのあるこゝろ　布遊

稲妻

くもゝ見て居てもつゆ月は築波山こゝろかのもゝ面ゝ稲妻　安見

月

乙如るの中に立ゝ神浦ゝもあるてこゝ月新　元好

月

きれまでこゝまゝしゝ川もあるに花とくもあく月は海ゝ初ゝ　池住

黄葉　遠慮なく寄せし橋とみちしてやまふ女人のあかとらるゝ幸　久住

口しめて人ゝもこゝおねと流とかる榜のくゝみちのもみれ赤山　花吉

雁　まつ来るなのつらゝかる羊斜ん滝のやゝかもふかて渡るを　呑安

秋野塩　秋風はなかる小野の時計羊絡はおりかゝをておけるも　野任

歳暮　あふ馬かるせ縁しさ手は時の待秦さしかゝるらずは多さよ　長廣

寄川恋　このらか土俵やつゝん細川袖の恋しくしよわる掃くくよるを　内記

寄茶恋　きぬくの朝葉とせんつまりてかろいまちの顔のしるを　道吉

寄器財恋　意帯は禮を御さいさゝ着はさるかく後はあいぬ岩ゝき　好人

寄虎恋　虎の子はやゝみたるゝかくれてもむかうへいくさとめくき　川至

生類　梅かふくなゝらもかしぬまくさいは桜うくひの名もよるの川　志賀

森羅亭

櫻田久保町　森羅万象

判者は意味をさぐる趣向の詩は似たるきよしく遠くりて別て四五句ある上の句をおもしろく作りて四五は句の趣をよひ出すとてよろし

山家花　山里は世をさくら夜人の人にはかくる花をつみてやとらん

汐干　海のかき国ゝをこえ汐干潟かくしかくれる志かのことゆふ

夕紅雲　雲の峰は世の袖も衣は袖とふる手中ときさえなる衣

池蛍　猪田の池は蛍は照る肩は鼻おもふく姥の蓮の上

萩　夕卦く業来は流る萩は枝ゝよしけしおもる志らる露

峯鹿　おはて網は山葉れく鹿の称おかる峯は秋風

社頭雪　志る雪は和幣とゞいの玉垣もよふる人の跡

寒草　山風に流れて河辺の草はぬれかへるまゝかれたる蔓

湖眺望　揖のふいかすゞ川の山本の浦花生わりゆる稲かね

寄和歌恋　寝殿へ縄をとられし紫もしも鳥を憎はきぬくの恋

葉志喜丁閑

森羅亭

點式

朱引

青 加幾加曽布 七点

朱 毛々多良須 十点

朱 毛々豆多布 十五点

朱 ✿ 増点

三点

秀逸褒詞

葉之喜彌志

又 葉之喜加毛也

遊印

花押

又 卍

初名 七珍万宝
後云 森羅万宝
今号 森羅亭万象

森羅亭高點

海辺霞　京都なるゝ人あれと仲いかなる村雨に見　月記

初夢　百貫れ蓬をとをえくる初夢かなるかなとて夢とは吉端　保佐

柳　おの川くるる柳出ふる春柳風にくるる春花かなりて　万宝

鶯　光くるふれるをきくあかくるに鶯　宮人

雨中行花　ものいふ春花もなをけしおもかしさは春雨の宿　赤泉

横花　水にうつる人の上まもあり山いるる間ん花をたゝ雪　千賀江

杜丹　やくまるく十りの雨みるつ春花の蓋もかるゝ　笑顔

時鳥　ゆふしてれ西ふけ雲くるくるの鳥ひてやさるる　万歳

夕立　布引の滝よりくるる立いくつるん降りて涼しき　明行

溪雨　みくるる田に今もるるへ初雲の洗ふ流るる山くるれ　友義

海上雁　秋深海やまの海苔をうち流し　實副

人家月　まろうど人も手枕ぶりて寝ぬ　霍成

初冬　ちりぬるや初冬櫻まれにうつ　万作

氷　いもうとの紅葉も氷のうらにつゝみ　万里

時雨　うつゝ雨ぬれて紅葉の上にうつる　伊丸

月　うみ俄に秋風の火ともあれ　好人

逢恋　あふ事を水にかくしてこれ程　綾人

旅　大江山いくの道をたづねて　士丸

鴻雁　海路の波のあるうれ所　早牛

月　雁鳴て雲の高ぶる山の上　下蔭

芝の屋山陽

芝将監橋西街

柳　星ちるく夜のよるの柳ハ行の秋いの手とうらん

蘆花　ちる山ハ裾ハおくこそうるの花とまの風ふりう

出替　ちる家の妻ものさまもいとまぬ神祇のくすしちりの出替の西

漁村月　さゝれ石の磯ものきれて海つゝ見ぬ

清水　鯖をうつ海波の山陰ハ赤き紙ハ海ふつ一夢

雪　ちる雪ハ月のくまのいわれて九条ハ稲やおくらん

紅葉　ひみち紅葉ハ光明丹とうん信　極彩色ハ古佐の山陰

青仙人掌　雲よりの庭を吟て書しやまもくるせ

芹分小舟　うちうる渡のつくるわせて芹分小舟さらちう

富士　いち数ふ其ものの富士ハ近ようみの秋も名残

よろハ物の足立
又ちゝ間京ハ情
ふるこ家武ハ地名
のうは金色ハと
おとろく住立て
うゝ数て人のよく
海ハれるうちの
ちの　清　侍
源氏物語ハよく
よくこうゝ家ゝさるを
おゝゝゝもあく
その頃ハ行と浪
くるりもかゝし
蘆荷
鄙俗の俳を
ちゝ演

點式

青　三カシホ　七、

朱　ウミヲヽス　十、

朱　マガ子フク　十五、

朱　キビ　吉蘭　遊印

朱　五点　秀逸褒詞

長三、　美作那久米乃郡山更下たりの山

加点

兼押　芝

初号　大井千尋
後更　山陽堂　映沙
今云　芝の屋山陽

一粒萬倍　信玄茶種
七道五種明
芝の屋主人

梅　まつ籬の風の吹くにみ揺れて十百とくさ匂ふ梅の花　後の人ひで　瑛沙

析　小町とも花とも名をいとはるるあもものつれ柳に女ありけり　針女

篝　春雨はふる日とつゝみ蛙なる日の出を歌をよめる　二号　真全

〃　こゝろふかき山里にやけ猛のさゝくれまを紙つくる　住あの名郷　古郷

堂　蒼壽のゆく末をみ流すゝれまさゝくるまを世界の歌を　後の大文　升守

箏　相手をよくぬまなるまをぬ度をぬさてとつる丹のよ　二代目　音人

若竹　さけをぬぬ夕へつのものとなりてあしとゝ色のまゝきの若竹　山芝

鶯　七夕は一枝鶯と短冊や色紙の色ゝ毎ゝつけゝ　海原

夏旅　ふるゝとゝ紙ゝ小鳥葉のゝ色鳥つゝ世せゝゝゝゝ　千賀江

〃　暑さゝゝを鶴のまゝ孫なして旅人も鳥りて水をあひゆく　演成

ゞ
松島山の松風すゞ緑香炉ゟの落るにまして涼しさ　松壷

ゞ
古里をまつ出しられと涼風は秋くちうるとそ嬉しき　松詺

温泉
病人も信濃の出湯にいられ八丈飯をくふ希ふなりける　畦成

都七夕
天の川去年も水手瀬のうち渡り星も日和をまちて八十瀬　亘頬

高山待月
男体と女体の山は仲秋に夫婦も内のうちまちてをまつ　仲吉

菊
志も柱さらる菊は多く菊の花なきにはよきてさまよひぬ　石季

秋夕
清水くのあまり汲出しあくひさ入つ風方みき秋のゆふ暮
信州スハ

初雁
白妙にまよへる庭の初雁もつひ消ゆとも島の足跡
同マツモト　麿窓

別恋
衣〳〵の袖はとめても暁の孫清けりとはおもはさりけり　哀去

思出
かくちらん人の心を知られては我玉の緒もたまらよめ　鈴繁

年竹庵　八町堀　藁部年竹

松竹寿より
おめ出たるおが
身におさしく
あるある
強ゆき方
よろし
禅気ありあり
也ゆるし
子供の戯き
能　和合
書画のうへ
およぶ
手柄あり

春雨
糸萩はまの込めり沈を釣りあやおさへ留ぬ春雨のあし

帰雁
花もなくしあれ故人も来てきつれ八池田をを立帰る雁

河上時鳥
郭公あれと見ある虚空地川をこえさる河ゝの一声

連夜聴月
夜あるきよちをむ物かゝ新月のまちくるひゝや人のいふらん

月下松
夜は雨も世くろ四方く清く杖をつきさりんさきや幸待の松

紅葉
對馬根子をしる和葉は八度やそめて探ゝ錦も見えさる物

埋火
埋火のおきてれてぬくとも見ゆるへ人のおる夜かもおてやせん

寄瑞恋
仲人もいまへあさみは側杖にうちくるうく立をよみ恋し

別恋
きぬ〳〵は又別れをとよそに新まゐるにやさしきの香のさうき

明観寮知
阿字本物妙本物とは知れも本より自然法蓮陀佛

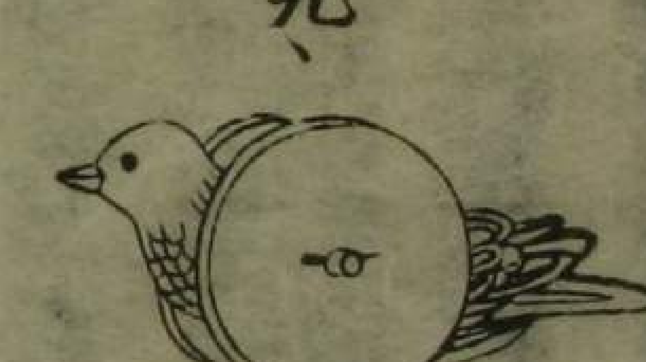
點式

七、 龍駒

十、 鳳雛

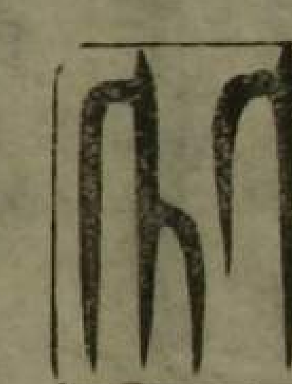
十五、 麒麟兒

九、



十一、

關防 游戲三昧



別号 什語齋

言語不弁出入處　年竹書

年竹菴判高點抄出

析　舟は中にむすびくりのてよの小箱の大縄と岸の青柳　倉光

若菜　鶯は声を永だてせしら刻菜を打つ若菜つみかや　千菊

紫烟　目をとえてるさくらさ石の火はさらさして見るおも出ぬ　其全

初秋風　白露の玉もしゃるやくらん風さとしまらぬ秋の花さり　持主

待恋　待ちるる拵えの風や床待ち子はときるちぢかを八十七まで　穗波

山吹　宇治川や山吹の瀬をせらりさくのさんと宗八まさあぬさり　高人

郭公　さくくるもよぬさの樅尚代る冠を嶽はせん田九よさく　兼成

雲雀　みか嶋の月ら雲をわくまれ八先を湘のさんしよのかり　久吉

蚊遣火　やまる燒煙とら南も山號で銭ら坂中りは吉川深き頃　九菊

春雨　淡青はあるともさ赤て其れ以茶山のあたい淳なる酒　有常

鴻

[illegible]

定親

郭公

[illegible]

[illegible]

海上晨

[illegible]

梅風

[illegible]

納涼

[illegible]

山吉

吟丁

小山田[illegible]

二字書

載花

志賀の[illegible]

[illegible]

早牛

彌生庵

麻布北日ヶ窪

桃本雛九

立春

[illegible]

遅日

[illegible]

郭公

[illegible]

稲妻

[illegible]

月の待宵

[illegible]

鰒

[illegible]

山家

[illegible]

鳥

[illegible]

深夜待恋

[illegible]

夢中逢恋

[illegible]

點式

奇毛　七点

愛可聞　十、

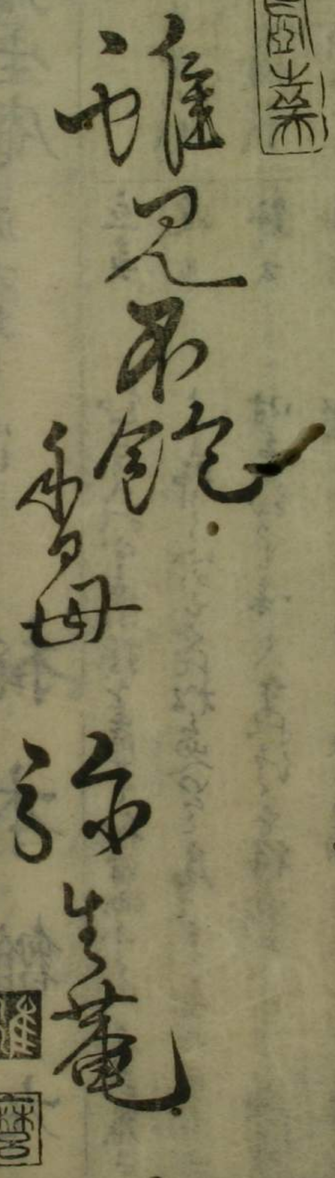
鹿鴨　十五、

朱書　暮〳〵ぬ　十八、

加点

花押

別号　春月堂



弥生庵判　高點抄出

寺鶯　絶ひ〳〵鶯を縫て行ふ寺の庭　西鶴　桃栗

春雨　野ろとろ〳〵あけて行ふ春雨　杜吉

里家春　家々は声々一ツに入てゆく春の月　金海

梅　咲ちらし梅よりさせ蝶ハ行ても野場の梅のあハうて　文吉

二月雪　ゆく〳〵ゆきまとい　ゆくつの山をまきまとい　松門

花　ちらしまゝに酒をのませ〳〵山ちにあうくしさせん花の盛　俊雄

〃　うつくしく縄ハあ家糸桜　松友

更衣　夕ちゆぬ立てる寺手は咲るゝ　糸春

〃　寺ゆ〳〵ハ〳〵の羽布ハ　蝉の羽衣　彩佳

初秋風　初〳〵ぬ〳〵れを入りうつの　秋のうつ風　倉光

七夕　百人

原月　遠路

紅葉　雲海

和歌浦　梅園

洛陽雪　秋走

雪侍恋　弁慶

侍慰　秋走

恋恋　弁慶

楊貴妃　早牛

萩の屋

本町一二丁横通

金吹町

大屋兼住

俗名

文屋康秀

むらさき

鄙俗を

嫌ず

法師

粤東

俳諧

おとうとの

ふるあり

折ふしの時も時しらぬ花の盛人

年ゝ廿年は形ふゆつゝ世をとろへ

後の世を鄙色あるを生れ来て家をふまれ

ゆるめ時をもち体なし我もちとれん

ゆふ幾る拾遺抄のつきてはまれ人を問おぶる

ほゝふをとゝもをもつ稲かの

記りの矢を形ふ枯梗ゝりゝ時をよ秋乃下露

白さ拾見つゝあゝ毒なゝ雪み月玉をゝ人れ

世事を誰を先ゝ社穴ゝ人をのゝ分君ゝ家弁

山出ハをゝ見ゝ遠目鏡近ゝ人れハ書きこゝ

君ゝよゝ俗の隠ゝ延を今ゝ年ゝ小松の弁山

點式

寛延年間
ト柳の門に入て狂名を
大奈橡（ダイナツエン）厚紙（アツキ）と云
其後二十余年狂歌を廢し
明和年中に又狂歌と共に再び
詠ると其後 四方赤良先生に
たづねいる
大屋 裏住と号
寛政九丁巳年刊行して
今云萩屋翁

萩屋

右點甲乙

萩屋翁

萩の葉の
散ハ
四季
恋雜と
混雜して
彼
人
ちれ
ど

こゝ清水にのゝ出ぬ山辺は甲巖とも彩持したる禪僧ともいふ
山里は秋の哀を示す中に而乃ち人しらぬ山ちとあらしやれ
大比叡や嶽は其根を洗ふ星霜有たうへの法師ハ
夕風に杜をこゝろ清水地もとゝ柱ハ涼しあり川水
揚柳は妃と彩ふ桜の公主ハ、閑れしてふくこまきひ八ゝ
ゑ背子をとゝ天狗見ハ山やみ出るのまとゝ
紅葉ハ人を青ゝ山の乃摺衣みなとゝ也ハ
乳獨家は海辺の捨小舟ハ、松ハ生ゝ
あゝ海ハ珠数を繰ゆゝ切人ねもあるゝ恋を
ゝ杉ハ二ゝ生の松ハ人の恋ゝ

[illegible]

傾城の中宮備を実みて光るくんをたのもあるとき
待歌[illegible]の別[illegible]
姉さよ男[illegible]
いつもれ[illegible]
初妻[illegible]
百貫[illegible]
唐詩選の屏風を[illegible]
[illegible]
一節に千代[illegible]

花の屋

新材木町　少々道頼

[illegible]
遅日
端午
土用干
晩立
秋野遊
小仙
小鳥
返事懐紙
[illegible]
市商人

[illegible]
妻[illegible]
人形の[illegible]
[illegible]
[illegible]
秋の[illegible]
朝風に[illegible]
池面[illegible]
[illegible]
沼の[illegible]
[illegible]
[illegible]

點式

紫 七点 墨引 一、

朱 十、 三、

朱 五、

朱 十五、

糸紫 加之十八点

朱 加点 一、

花押

道類

花の屋高點抜出

花 本はりと仮垂とすれバ花乃メ垂 石蕗
山茶 喚子のもれてハ和ハ四ハ物をうけ山の虹乃井戸 千賀注
柳 四くさ紅出水会よの箱柳まつひとぶり刈る まゝ 二方
海棠 貝覓ハ海棠と称ふ 早牛
妻物 妻物ハなれ水洗ふ毛牛房ハ仍ふ麺を水とさゝ 佐十
別荘 匹ふ ふくとをひ ふ ふ 紅の別荘 告彩
窓梅 朝ハ新ハ窓とあるとほのるとハ砂頃の梅 同書
古松 秀ハ松ふ ふ ふ 松ふ元の松の下ハ もまふ みゝ子 貞人
秋夕 林ハ八下ふ ふ ふ ふ ふ ふ ふ 秋の夕 田鶴
桃 十ハ ふ ふ ふ ふ ふ ふ ふ 桃 京藤 朱

梅　まねかれて春は佳名と呼ばれつゝ笑つる家も在の事　笑顔

思恋　我恋は人目にもうしと洞ぐへるも奇しむ猶のつるしさ　漱迫

虫　牛引ぞ川にはく草むらに鳴くは秋の虫や寝むさむ織　春去

〃　草むら波は管よりかさて箱根山に声る秋の虫の声　丹お

早蕨　風よきて蕨のみゆる下ぶらひのまゝも来き賀の山姫　峯頼

海辺月　枝もりをこされみまよりし沙の月させし山の夜此ある松　長房

月　松とても帰る人とし秋も今中秋の月よしの人　古渡

擣衣　くらう人衣ぬさは衣ぬのあく夜とみえる人とみをたおふう　逢安

老述懐　紙子なく老人は年寄ちる松を川へまりしもく寿さ　和樽

〃　月もらく千歳をあれにかるあま人かけぬおき井とあるもれ　友義

芍薬亭　下谷三枚橋　菅原長根

割書よふ狗一首をしらくと／しく趣向の珍らしく新らしきを一とせむ／作者たち上代より接ぎて文字書のよひけよび馴さる字書／漢土の地名人名のよび馴さる歟を童謡流行の細にあらを添へ嫌ふとふく仮字書遣ひ少しも有べし

山霞　富士の根にかゝる霞は蹴鞠に足高山をかくしこそすむ

梅　清水の音はおかる紫まて飛ぶとる梅の花さき

花　世中よ印てえぬる花は皆吉野の山の葛ふざりき

雲雀　まれある雲雀はおのれ羽れを取えとくる天をも飛も

初秋風　葉もさそふべどの衣の裳さすらへてくる秋の風

霜　栗丸もおしはさまざまし枝待ら初ま霜ちおれ

葛粉　吉野山雪とくる葛の花の根みうへくる葛粉の白き

王昭君　もろこしの吉野の山井桜色なげは夢花のおもかげ

隔恋　あふ人を隔てられるてこもりれ巨燵の中をりる恋の床

寄野祝　ときまれ代の武蔵野はさ法のおくのもと出る遊ぶ子遊

點式

朱 七、

朱 十、

十五、 十三、 十、

閑防印

淡如水

雅中俗 俗中雅

芸原

花押

號 潜亭 浅黄舎成

春風如有意楊柳
媚行人猶妓住東
地水流送旧新

[illegible]

早春 [illegible] 和樽

残雪 [illegible] 肉蔓

小迎柳 [illegible] 愈女

花 [illegible] 押名

橋 [illegible] 年成

五月雨 [illegible] 横丸

夕顔 [illegible] 光丸

女郎花 武蔵野の[illegible] 東奥

萩 鳳凰[illegible] 肉丕

虫 [illegible] 仲良

秋夜　斧の柄朽てくるもしらで柿蜩もうこれやさらん秋の夜　緑ド

鶉　秋の夜を也弦やうくんくうこの庄うれ方り鶉あくこ　朝記

月　落くるあくを住よとふ松のあと月の雲の枝折もせよ　角藤

〃　森もやうて涉もあくくんくをさしたる烏くくく秋の扶桑月　佐十

月お生　見さいくよ枝おろせと賢月邪戸ふあくぬ松生の芝　二年

湖上氷　氷て孤を写ふのとくくもあくあけあさ湖訪の湖　刈在

窓　行くくくんのいくてめれさくん男業のおけ五樂の海　道人

寄川恋　あくのも変くくくあ疑拍にくまるくと別くくさ　貸あ

疑恋　さくくくみくくあくとおくくふ偽のありやと妹くを恋くん　光九

寄川恋　生白川いくくを紙をあくくくんこ人おくど妹くと恋ふ身ハ　石季

白鯉館

本所相生町

白鯉館卯雲

一体伝説の作とよしし粗くくくくも彩向れ秋しきみくくあるもし

恋れくおよ男めの中を君くいつ河を見くえを嘆ふもくくく丸白くくくさくやくくくくに住くくん

氷柱　君代の恵ひつし奏とくしと鈴や祝もまれたやしみ

春曙　梅ハ白ハ景ハ嘆耳と巣とせくと記きくくまけあけの

あ雑春　ナくき彼く氷鶏ちくし松くくきれくくあ変物くくう

七夕後朔　むくくくくくよと鈴ハ引くくくと別との書送くみ

載東　搭物くて棟くし鬼黒ハやくくあくとくくくくさく

木枯　岩白まのくくも恵松のくくも恵ハくくくれ秋のくくし

初恋　りくくハ海すし細ハ落くくんこのくくそく梅の赤ハ

寄枕恋　くくみくる恋れの中ハくき人な松よの之　引くくの口

山家稀客　堂ハ尺くくる人のくハ栗材のこのくくれくくる沼地くくを

鳩布巡齢　いくく千代くくくくるくし人おくくくれくを常ちくくの新くくを衣

點式

✿七　✿✿八、　✿✿九、　[illegible]十、

七点以下ハ朱引　十点以上ハ墨引

○アなし　○むし　○おもしろし　○珍重し　甲乙ニ随テ褒詞ヲ記ス

關防印　各朱肉ヲ用ユ

初号二鐘亭東雲　今改白鯉館

花押

閑中惜世　竹雲

松風拂座上　筆客潤世心

正號雑末学　世座須好涼

白鯉館判高點抄出

山霞　筑波根の峯ハ手にとるかく世とも霞ハ又雲またなけし山　东雲

柳弁妻　時まつと立るの柳の志たり縁ま乃花田は緑子をもらん　一丸

桃林旅牛　[illegible]牛はあゆまぬのろくも桃のはやしにたびや[illegible]　光就

遠路花　たちとは花ハ霞もへだてしはてあき山をあてさ日まん　萩丸

菱艶康　鬼ささ[illegible]あはれけにな風のまに前葵さし[illegible]ても　浦凪

名所勢川　玉川にハ鮎やこうんと鵜の咽をしめつけられたるその世かな　千別

宴草泛　[illegible]のまれ山田の糸は交草の志けさもりまさ[illegible]　洞浣

夕顔　[illegible]はまさし[illegible]やまさ[illegible]れ[illegible]夕良の花　貞岡

月若一　てる月は[illegible]のさくや村さは[illegible]の玉札　佐十

柱和葉　[illegible]紫ハおりしもさ葉[illegible]て[illegible]行[illegible]の枝　位

月照古橋　てる海の月よ全く移れ人もあり立ても知らぬ家の柄の橋　応住

行路菊　めつらしき黄さく道をさし中にくれこそ花のとまりありとて　内近

秋祝　君が代は豆の葉よりしげく萩の上にも萩の上にも　青人

田秋ア　田の畔よつゝ重らもれもこしまをまつてかりやきぬん　和橋

湊より　浦風よこゝか吹こゝ波千鳥ふさしし湊江の芦　大太芳

俳名　作りさる罪人ものこゝまし世の俳乃こゝふ人ても　景道

春雨愁　時々くもをたゝくよ梅の雨　細道

夕意　夕立のふれていつまぬ苦しきに忘れ情乃虹れ乃橋　鍬丸

意橋愁　志の一筋ふもつく海る杉本橋りけてめしぬ猫のくさ　長雄

名所滝　よし仏月よ紅とこゝ人の気もちよ降る滝の志ぶ玉　竟雲

尚左堂

小傳馬町三丁目河岸　窪俊満

宝舞　三月細く仕立てる歌二月ふりけて三百目　春山

水冠掃を拭ひ　柳

乗らるる　時鳥

入れ水冠掃を　風の夏帷

つ[illegible]　茅巻の秋

伊勢　茅巻ひ

孝行　恩愛　秋夕

蚕　滅敵　春雨

画　賀亀　行思

農業　古舞の風鳴　月の秋

[illegible]　魚

點式

墨 一、 青 七、
長 三、 青 十、
朱 五、 朱 十三、
十五、

加点
一、花

東家西
西家東

揮取魚彦先師より傳来印

尚

俊満

菖蒲水

尚左堂判高點抄出

魚舟　初夏中ごろ井眠る器なの舟動きうゑ魚の山水のぬ　故光翁

懷旧　元結を貧きうゑも黄ゆく蟲ふ糸たるもにとゝの年　仝

山家菓　山寺の徒然そゝふぢ〻ゝの色さ〻〻〻〻代菓られ　羽風

庫不達悉

花　塩花とゝまろふ霜のふくうみて客とゝまゝけし拒女ゝ門　長文

あゝ時ゝこゝさゝゝふんあゝけくおもゝあゝとゝゆれ　投彦

〻〻ゝをいゝ垣ゝゝて花ゝ風のゝ虫ゝゝさゝぬつゝり　稲葉

稚年花　ゝゝも山のゝ花ゝあゝ先ゝゝゝゝゝゝゝゝゝ日記ゝ八ゝゝんゝゝゝ弦人　春芳

平産　大原の韮（コシキ）もゝゝゝゝゝゝゝゝゝ生れ　長彦

工職　仝子ゝゝゝゝゝゝゝゝゝ高く生れ　雲面

燒孔　仲人の風ふゝ家ゝゝゝゝれ天下ゝゝれゝ新　枕　方来

庭新樹　春ふかしこときのふけゆくまゝにまとをはらに青葉ふりんとなるもせ　佐保姫

初茄子　そいさやかのせい世の初茄子ぬくまゝにて汁の中よりいとゝ　不及

砧　おとゝとゝとゝ

點式

朱引　二、
三点ヨリ六ツ迄
朱ヲ以テ書

朱
秋きぬと　七、

朱
十五、

朱
十

遊印

増点

秀逸　廣詞

花押

扎上袋

袋人書

庭訓舎高點判

七種
浦波
海辺雪
山田早苗
五月雨人
宇佐蛟火
閑虫
遠雷
里猫
笹葉

無撰
節負
定岡
賢廣
苔人
賤女
杉明
軽喜
和樽
早則

紅葉　繁木
惜妻　桂後
濃葉　佐十
千鳥　蝶布
冬月　芳見
遠恋　益友
草落葉　芳賀
山家　義晃
懐旧
寄月祝　真風

便々館

牛込山伏町

湖鯉鮒

俗名
ささ
やとき
ふ
別
心の杜ふ
あり

春曙　混沌せし柳も梅もめくみ初つる春は曙
歌冬　山吹は花は生人をうひかくしたる春の時子
夏草　雛宗祇仁とうこう人夜の面花の春も為延　為仰
牧笛　人のうかれ心ハ秋小信ひれとかく世を送るる
撞　我市ちひれも自ふく春出をるる老ちさ
秋夕　林しさをいくん生きさ春もせてくきんをる秋の名
秋菜　春ふ春ふ小人つる菜は鏡ちあ春ふ四花せん
炭竈　小春ふ春ふ春ふ春ふ春ふ春ふ春ふ春ふ春ふ春ふ
恋　恋故の佛いろく仏甚人は後生郎とりもくやしき
旅　春ふ七軒の法まさ春ふ春ふ春ふ春ふ春ふ春ふ風の春ふ

便々館判高點抜出

點式

朱

三て
五、
九、
十三、
十七、
二て
一、ま
一、ん

即ち肩
筆ちんち
ちんち

初号
福隣堂 巨立

便々館

炭方
衣太
袖廣
古渡
占去
青地
去住
旅雄
主友
廣住

主妻
形逸
主月
西行忌
郭公
名火
七夕
槿
月
古寺月
埋火

早梅　梶人
名立歌　時成
寄月恋　芙新
鐘　よしゆき
古寺　豊馬
述懐　千ね
懐旧　葉廣
社頭　丹作
鬼　和流
寄物　山吉

千穂庵

三陀羅法師

神田お玉ヶ池

俳句者の聴を
問ふみ一首
月泉
子日
郭公
野蛍
野分
落葉
寄する恋
寄物恋
海
蓮葉

婦人

點式

印を用ひ筆にて傍に志る

籠（カタマ）　十点

加多満十一、

布久思（フグミ）十二、

美加多満（ミカタマ）十三、

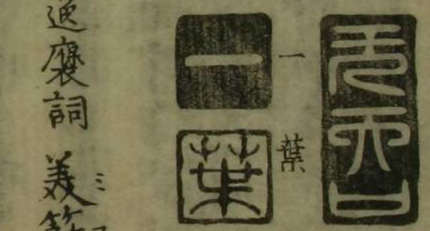
美夫君志（ミブグシ）十五、

点数十五点に限る

長点　稀に出す

十点以下八点多し　記す

秀逸褒詞　美籠（ミコ）美夫君志（ミブグシ）



雪　いくとしをつもりぬれてふるゆきのみのくぬみもやまぬ雪はつもる　実盛

名所雪　まきもりふりをとけ山や梅ちの花をあさひく雪はふるぬ　石丸

関屋雪　越ねてまはしたるやあ掛屋もきのせかりうの弓張提灯　丹羽

恵恵　吾妻のあるをとをとはなしのみしあるをしてもとふるさ　積丸

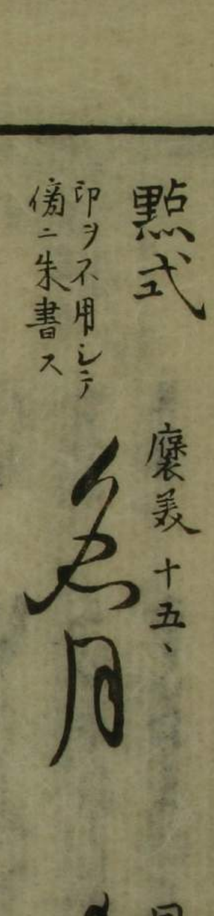
寄仏恋　妹と氣の仏問所ともあるなくハかりて送ん牧駅行　金砂

寄神恋　緑むとふ神ともかハ君ふくとくとくと

點式

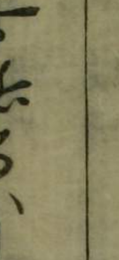
印ヲネ用シテ傍ニ朱書ス

慶義十五、



同十三、

花押



千首樓判高點抄出

初春　やうまつ人久人月のこもちたる冠者とりさ、ぬるかき　身栄

朝花　朝ゆけはまきまのりとはるぬらしにけりいろの花の露人　石季

山家花　梅ぬさとりあつめる山よ呉むくるとうてとうる花のさくら戸　松子鹿

女手紙　まのゝおとゝよ女を庭訓の三月頃ふまつ手紙　佐十

蛍　ゆうてもはいらるゝ堤蛍の袋をとりて蛍ハ　玉丸

川狩　川狩ハ涼しのあいの狩言とゝ思ひうち網やうつん　山人

怖秋　秋人もかも妙川ゆとゝ捨てゆ月ハ長命を生いのゝし　古吉

残暑　あゝ残る暑さに庭の芋ハもゝゝぬるゝ秋ゝ紀せう　時成

秋草　まゝゝし嫁菜も菜ゝ名をゝ久て秋の世ハゝま袖ゝ　耳水

萩　庭の面よゝゝ久る猫のゝはゝゝ月ハ月のゝ秋ゝ　林秀英

月　さやかさに雲八月も去れりう月のうちなる空の海にう　陸奥方

初冬　炉よりの雪はたちて炭あれ炭をさしまわしをのの口切　周秋

樟脳　樟脳とうまうふうふかけてきのねやゆる屋の紙衾　身有

煤掃　うせ物のあるかもたれて宮の内よりあれ立し荻の煤掃　妻友

時雨　怪なしさふらも恨うたかぬくさに笠の住のまるかと　東士

炭魚　魚は名のつあやの海のうのもの川のうのとも　和樽

山旅　鬼はさむ治鹿の山路ゆさられたのこ穂はあるらのこ　長路

山家嵐　沙石の世を捨し身も嵐吹ゆ　下屋　春夢

こえ孫　中刺の小刺もうせ子の住あるて祝ふ元服　袖風

新宅　なもうるうる桶井のちよりけて引れ新宅　胴丸

千猿亭　駿河臺

隆弱　あ〜〜嫌好の　須矩を宮あす　自詠　千利休の　詠とまらい　風もみち方　あれよ順ふ

初春　梅の香は梅よりはさいやあ遠あるさるまして俳

梨花　花咲てやうくみとらふ家とのあるとあるとしの人のうん

海上夏月　夏の秋は月はやうふくれるとれ月もいつぬ紅の涼しさ

菓　夏は面よ星ゝ月ゝ秋は天ゝをおきまゝいもるもの菓の花

湖氷　矢橋ゝゝ氷のゝゝやゝゝ湖のいとはつゝさに

戀　ゝゝ人ハ家ゝ事を水ゝて湯よいゝ水いゝぬ下紐

祈久恋　恋ゝあん動の緒ゝゝむゝいハ年待て秋の芝ゝ遠ゝ

杣山　生義ゝゝ山かゝも杣人のうしよゝ来をゝさ出ゝ

旅友　手ゝゝ友ゝゝゝの柳ゝ旅のうさゝもおもゝふゝて

鳴鶴　恰も雀のむゝ古い出ん牛角よゝ野の一聲

猿蓑　業枝

千猿亭判高點抄出

山花　桐保
雪とみてあしたさらぬ花ゆゑ佛雲の記　みよしの記
撫物　美鳥
撫ものもちとさけとを方はくるく折しぬ花の姿人
雨中蛙　夜楽
蛙かな雨よりくれたいふく泥田の中よ蛙ふくふり
潮下駄　柴辺
潮靴をはいしぬ女言の行やはうん
牡丹　歌屑
牡丹の花の代や花のまゝまゆづりて
若菓　名畏
我まゝたゝん深山のあさかゝふうち記ろうて若菓さとを
祇園会　古渡
ふうらみしかうう雪ふくちくえゆう祇園のかうう長刀
蛍　豊成
蛍家のうう藏家を記をうを世くく右ゝ左ゝ蛍花ふ
扇　積丸
秋風や桐の記ゝと封ゝる扇ちゝ蛍のいゝいゝのあり
浦月　琴成
浦ゝ月よゝちゝ月ゝ記ゝうゝあかゝうゝちゝふゝさゝや

點式

印を肖筆をとりて傍よろこぶ

秀逸慶美

加点　十矢上世印ノ数ヲ以テ知ル

て点

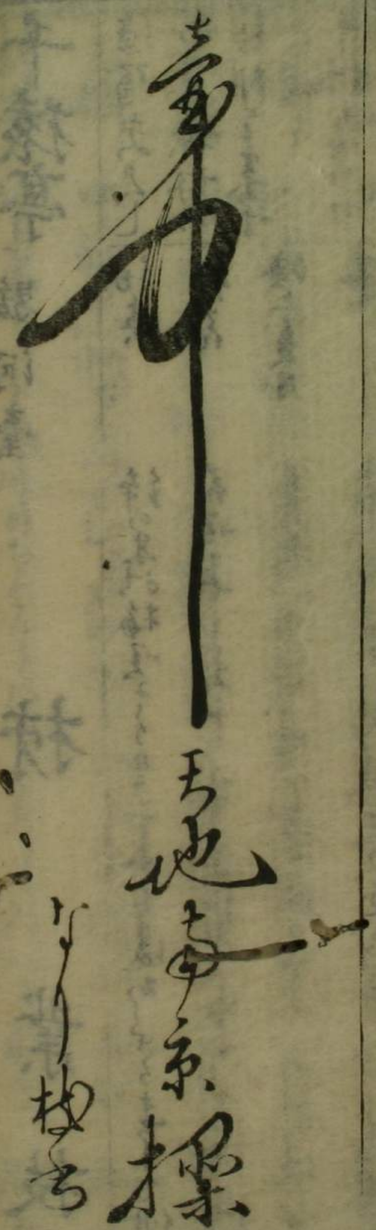
遊印

真規

猿

兼押

枝葉



古寺月　はるの山のうるおとよろこ宿坊の三千世界てらに月うみ　和樽

九月尽　秋もこやりふを限りとき九たあとうとう秋の極りとて　貸安

里雪　小野とりふるやうりん里人のかくまもうるふるさの大雪　夜々

山雪　ささいなをはるのお山や山まの掛る法ける雪はまーらさ　竹人

戀　くくしひ分ものもてまるはしさいあるむくしは君のお逢ゆ　林雀

[illegible]　折かなてとはり囲碁はきれみへあるは助さのちてくあるくん　櫻岡

[illegible]　なまあ小亭にもせめさばの恵はいさんされあ我命うか　金砂亭

秋林紙　社風のふけりあるふハ乙女の記やくさるるみあるさの糸　ちゆ彩

名所旅　ぞんれるつまをうん分ものるくる命くまわく熊谷の宿　竹ふ

社頭松　幸侯社宮長ハ松のみさるくうるるるくん　佐十

附言

武亭拙欲作此觴也。將今醉竹先生魁首。於是請予以見先生諾以示之朝。及朝有先生之訃。驚駭止矣。惜哉命也。先生之於俳歌實中興之祖也。且此擧也中道而脫先生。予所不忍也。因詢於武亭附先生之一詠以表卷軸也。嗚呼雄山月流寧殘餘光則為思君端乎。

享和癸亥孟陬

千穐春

談洲樓

本所相生町

烏亭焉馬

[illegible]

[illegible]

[illegible]

點式

嗚呼無為茂 十八、

篆書畫 十五、

加点

賡詞

○天地乾坤間

○ふるくみちる

朱 九、

長 三、

香 十、

青 高氏歳 七、

關防印

遊印 朱

花押ニモ用ヒル

別号 桃栗山人柿發齋

毎年大小摺物

歳旦 嘉例 笑姿歌

芝樂亭

芝宇田川町

櫻川慈悲成

寿駒

待花

初松魚

七夕

名所紅葉

輝

待戀

寿鬼魚

蘇合

寿鳥

ゆりのはなはなの野辺をなつかしみ彩さんの色とりはあり毛的

まこゝろあるこゝろの山伏行りてんあれ法さきの雲

いろくさの花をたてまつり初鰹 芝のあるこゝろまぎたしふるさと

花のたゝずみしら孫の人柳も春ハよくをたてまつる今の月

名所向山和歌の浦神さまも人の為ゆくゆく生ゆあれ

輝 貪毛ふらしかゝるのあるこゝろはなを為ものゝ

待戀 待つくゝと知くゝ行ち表ハ狐焼の針の穴ゝ人かゝ人あさくゝ

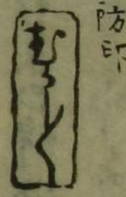
寿鬼魚 たゝちの点安せよゝゝ頃ねとさの我分ハ似ぬ鬼子

蘇合 ものゝこゝ枕待事ゝと点ゝと蘇の傷者は蘇合ゝゝ

寿鳥 せんゝゝも色揚もせゝと千年ゝ点ゝ安清空鳥は毛辰

印譜

關防印



花押

初号
親の慈悲成

著作堂 仮田町中坂下 曲亭馬琴

春駒

野分雨
田家秋夜
河豚汁
寄名所恋
室山不見人但聞人後嚮
山居
留別
旅宿夏
祝

印譜

朱 青 蓮 儔 者

朱 姑 射 神 人

閼防

朱 曲亭

靜中業

遊戲三昧

元章

別號雛窩又蓑笠隱居

朱

加点

著作堂

名士如画屏

古人原好丈夫

山東庵

京橋南街

醒世差人京傳

浦春

雪解

遲櫻

鮓

秋暑

月

野虫

市中雪

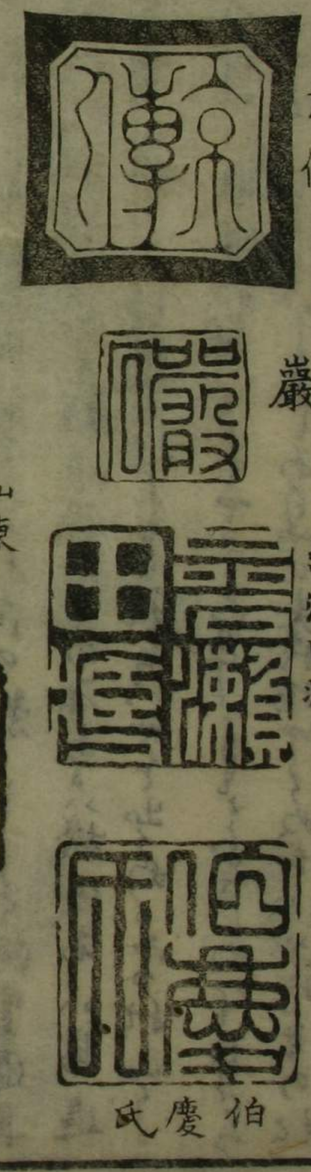
寄相撲恵

寄花街祝

青物よこ〻かく浦のいろ〻まて事めく賀れさしやゝ有度演山〻の了度ホ笑ふ天ゝ解ふそこゝ花ゝ悩く云ゝ下駄く仙境乃事とみやまの至極つい人習ひ四月ゝとれく塔風よあれ〻儀屋共とけ〻飯石をおりてこゝふやゝ鯛求ゝれたゝ秋ゝ暑の時ゝて戸はそられぬ人乃門に多く秋の月ゝめそゝて今川の影もゝ〻く溜富遊興大原や虫も雑混味れ草の庶あゝ機織あゝ馬追かゝらして熊の住ゝも古歌ゝ氏ゝ出ゝる雪れ山下氏長れむゝもゝくやさゝいゝもゝふされぬいもゝふゝゝゝ御祝後ゝまゝしあけやの素性物ゆゝゝ御代ハ打身の松

印譜

巴山人



京傳

醒世居士

巖

山東

岳瀨田臧

畫初号
蓮齋
北尾政演

伯慶氏

東京近郊名勝

游戯堂

式亭三馬

春興
山家
初鰹
納涼
月見
古蓮華
寒鳥
寒佛
山家鳥
社頃松

叡山文庫
山下冊

法華経をよく学ぶ者ともとは蓮華経の花の枝
仙人を食ものとしてもとりんを食みたもふ妻の山く
分別も何先学んで初松葉あるはなくあぬ内を賞欲
青さとしまの初かつおいかつさとそんとうさ巴山風の孫さ
法のくもりとれてりうか秋の夜を月よふーく芋食傳記
ふさ出くとんとく笑ふ康やとふーよ物くと山乃に合
曉のとりも物ハくさ意はさのい路をする精の月慶は月
奥の浦だくみかもーく拭恋のあくハれりか南江あくと仏
まくくあさ世ちくそさて住玉山よ又鳥の名はくてもあるあり
神垣よさねくとあれし松のまは祝まて正直せくろてあれ

印譜

關防

不器

醉夢閒

家在東武數寄屋橋南

三馬

一号 喧囉哩樓

別號 遊戯道人 又云 四季山人

花押

意馬心猿

追加

浅草庵 市人

浅草庵

浦相京月より
雄長老 貞徳

春

夏

秋

冬

戀

雜

浅草東仲町
たゝ〳〵町通り北角

壺

浅草庵判高點抄出

點式

朱印

わ〜ちをのもりやつ
ゆ〜ちをのもりいつ
ゆ〜ちをのもりみつ

遊印

浅艸

市人

市人

ゆ〜を
ち〜つ
いつ〜
みつ

立掾は武、毛綿
綾冊の押物の
うらへうきけく

別號　壺々陳人

早実　門毎に雪ふり積りて幾日たつとも年経
　　冠もうゝ沒るの梅花の木枯とのふく葉てもり　永世
雪　　蓬よりさ妻は雪ふ〜ふ助もゆきやてあ人牡丹の玉川　稚宗志
花　　乗しさハ妻の山をさに雪ふ〜ふ移玉とうゝ沒れ花友ち　寿歴
沒干　　貝の沒れ言りにみてね沒干特蛤はまみ泥のくねてち　有人
牡丹　　猫ゆるも世ま〜ゆせ〜く牡丹根八月はほり物ふして　九霖
樹蔭　　まゝ〜ゆる箱根の大半まを〜ゆ〜をゝ〜ゆつ矢ゝの杖の〜〜〜
射
松下泉　　貴麻せん松を蚊性を絡〜ゝ〜ゝたゝ〜ゝ〜ゝゆのゝて流き　音高
七夕　　七夕は願ひのゝ〜ゆもゝ〜けゝゆ長〜〜はゝゝ〜る綾冊のゝ　常則
殘暑　　ゆ〜ゝゝゆ〜れゝ暑ゝゝ門涼ゝ夜をゝゆ〜ゝゝ〜ゝ〜ゝ　守舍
　　　

月　清地より月をながめて　喜丸

十三夜　三笑

和歌　浅香山あさくも色のいとなれやうやうくれのくるるそ葉を　氣成

〃　宮人も袖の綿や紅めん敷をあらめしるふるとはりと　牧廣

〃　吉野山十人おもみてくれなゐの朱はせんさごき村　妻告

菓　秋の月いりけんとう旬ふく胡ケう垣の菓の花園　筒長

〃　星合とうたせん庭ハうさきはけ〳〵並よ秋菓　青芳

時雨　風ちるよおもいまハされて紅葉の中と一ツ〳〵時ぶるふる寺　長流

寄時　時雨ちて寺山のくもの寄ちる目のちるる水はの月　道雪

〃　ちりうもち寄の新くも山ちもものれとかるみ散ちる　如羊

楽楊庵

渋川四京町三町目

圓千則

雁　雁ハ秋もよりくいふくゝ人雁のみ空と云いふ高き秋の秋はたを

菊　世須ちを花ハ紅をくしられてちりかへるさまをうつしもふし

牡蠣　ちのあきへうえぬ青蓮ちの森の明よ行をうんとう蛭のあくらん

浦月　凡ハ月みまちうはもせぬ塩竈の浦

時鳥　凡ハふくハちんをうちうしくくハ人ちうしし初鰹

戀　ふちふのう紅ハうをよ時ちうをしくくハ人ちうしし初鰹

雪　おちやむ人ちうをいるあまてをうしぬ詩ち

紅葉　ちあうの雪〳〵ふちやの雪ちおさあてかちうあぬ雪紙ちうる水

物　ちりハおうちをはけ花ちのくしちうはをうくりの花

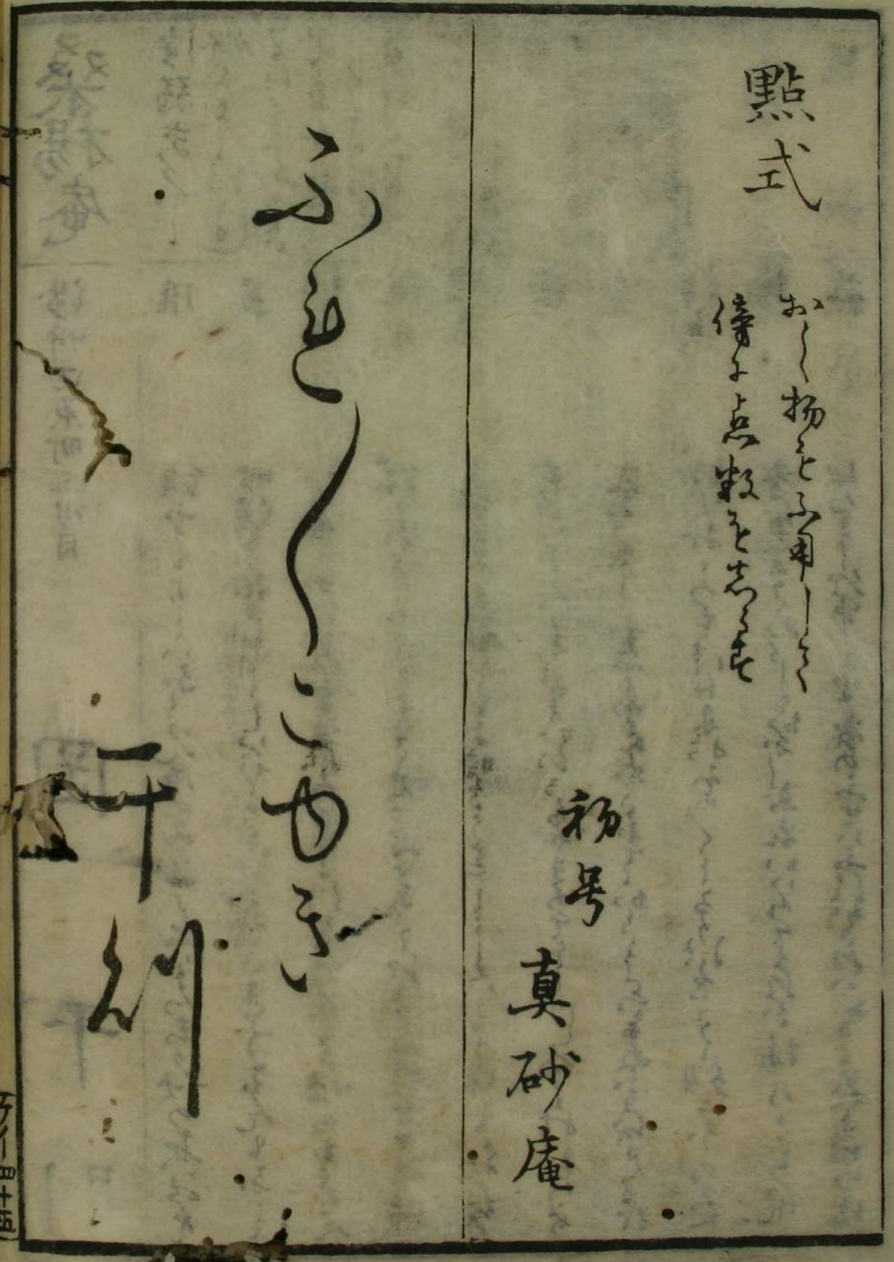
萩　香紙ちかくわちうもあ玉ちうはをちうこちの風

ちりまう紅年よ男鹿のふせハふしきれハ萩ちの萩ちの花つ海

點式

おゝ扨とふ申しこゝ
倩よ点数とさつ点

初号　真砂庵



栗楊庵判高點抄出

紅葉　おもゝかるたてさけしとゝみち秋の暮　下ゝ　芳根
待恋　くるゝとはたゝ野辺のむらふ恋あるつき結　三笑
杜鵑　ふ鶯を年につ来るかゝ袋おつふ　左吉
新歳　ゝろ人社秋悔の角もとゝ恋ぶゝ鹿の関ふ法のゝ　城中　加羊
杜鵑　ゝつふ泊ゝゝ社森ゝゝかゝて明ゝまゝ蛍の諸歌　下ゝ　宮住
海上月　蟹人のお烟ゝ生ゝ抜けゝゝゝ者かゝてゝゝ海原の内　上ゝ　識補
早蕨　さゝゝのやゝゝふゝゝゝてゝゝ歌をせゝ妻の山吉　則次
傷恋　須泉の止ゝ記ゝ社俗ゝおつゝゝ海てゝゝ社ゝ　松麓
鹿　妻ゝゝ小ゝおゝゝゝゝ鹿の蛇のゝゝゝゝ　臨奥　水麓
格川　ゝゝゝ男ゝゝゝゝゝ鶴の間ゝゝ俳ゝゝん　口　光後

時鳥　永仁

〃　加茂の山郭公　光俊　都知

松魚　栄盛

雪　廣俊

梅　雪舟　逢

納涼　夕風　糸人

雨乾　蛍火　世を捨て　人の身みくらく　寄る涼

野遊　糸桜　春の野　寄る

戀　逢義

廓中花　傾城　永喜

千種庵

梅霜解

洲州諏訪町

行とし人好ましく一首の体中とゝろよ　新古今

源語　枕草紙

物語　枕草紙

古今の古語古人の名ふと耳をさる中に緑の名くゝりゝ地名さとくく人情のうち中おもしろ

古今おもの撰へる四年えゝら

古今歌大百首

くゝ歌人の撰へる集とゝ二三種を古今歌の撰をもとへし

年内立春　いくとせとすぐるこゝ路の志ゝ休宮柱中ゝ生やゝゝん

花　猫は捨ても西行はさくらの花はゝ花はゝ

更衣　かゝくゝみもとゝ川のくゝあけさうへてさゝゝ

初鰹　一ゝん賞ふて鰹のちゝ袋人ゝ先の猫ゝふゝん

月　猫猶猫ゝ猫ゝ手ゝ猫ゝれ業は空ゝ一粒金丹は月

紅葉　大井川ゝ上ゝ蓮宮れ　あけゝゝ

雪　ゝゝ雪ゝゝ

片思　かゝかゝゝゝ　和歌ゝゝゝ

曉夢　ひゝゝゝ　枕屏風の唐紙ゝゝ破ゝ曉の夢

夢賀　ゝ歌の猫ゝ夢の齢の流ゝゝ　松飾

點式

十五、 賞賽 加点

十八、 丁百子 㐅

三、 豆府

五、 蠶巢

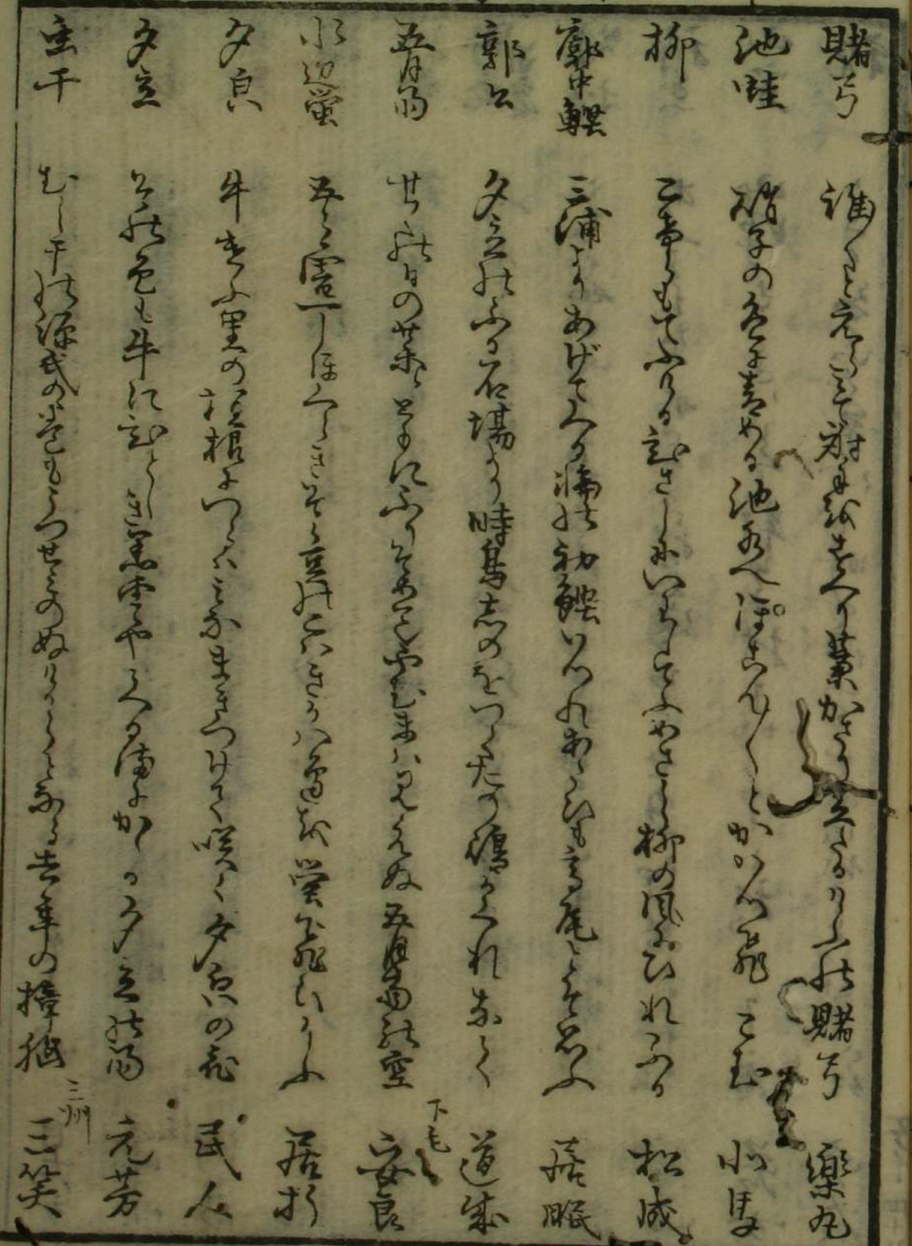
二十、 子百子十古 㐅

七、 七府

十、 十府

廿五 稻於京 世豊 㐅

千種萩高點抄出



賭弓 賭弓 樂丸

池蛙 小野

柳 松成

廣中輕 蓬服

郭公 道宗 下毛

五月雨 安良

小迎螢 蓬莱

夕貞 民人

夕立 元芳

主千 三州 三笑

蟬　せゝたゝるあるはゝ山もいやそこをなびかの村をつくるそこの日左女

萩　萩川秋なるふかは他人のこゝろを流せる麻の葉　永喜

初秋　新変ゝ声ゝゝゝ中ゝ月ゝ月ゝゝこゝぞ秋の初風　下絵　河島

雁　こせ山の棲のくゝ人ゝあくゝつゝくゝえゝくゝゝゝ広ゝね　青紀

鶯　鶯あまゝゝ毛ゝのゝゝゝゝかゝゝ淡駿雪ゝゆゝあゝゝゝ春　金弘

野花留客　ゝゝんゝゝゝゝ

賣弘書林

皇都　寺町通二條下り町　鉛屋安兵衛

浪速　心齋橋筋唐物町　河内屋太助

尾陽　名古屋本町五丁目　永樂屋東四郎

東都　江戸橋四日市　石渡利助

通油町　萬屋重三郎

狂歌東西集　千秋庵先生撰　全二冊・先達出来

世集ゝ江戸宋者四大人の評ゝ諸君のよろこぶことをあまさ
ゝ為名ゝ諸君の秀逸を出ゝ卓越の思ひを傷ることなく別て
奥あるゝ本ゝ集て狂歌集出来　任人来は絵ゝ逐のゝ

蘭香堂藏版目録

江戸さくらゝか山下町　萬屋太治郎門

清　顧世澄先生著　全六十四冊
瘍醫大全
黒樹庵先生点
楊梅結毒之部出来

傷寒論選註　津田道齋著　全二冊
傷寒津氏微
全二冊

經絡發明　菊地玄臧著　全一冊

讀書會意　太室先生著　全三冊

平　美濃大人撰
投井法河内方　全一冊

吉濃先生幸大人撰
茅葉集佳潤　全一冊

訓點千字文　兼山先生点

東江先生墨帖類

楷書千字文　全二冊

行書千字文　同

草書千字文　同

書話　全三冊

書法篇　全一冊

篆說　同

隸說　同

古今和歌集序　同

寛永法皇御撰
集外三十六歌仙　肖像ゝゝ　全一冊

長雄古今和歌集序　百瀬先生

加藤真淵翁著
明和の初めの頃　裝束の面目を　小本一冊

唐山象棋譜　昆山先生著　一冊

狂歌東西集　千秋庵撰　二冊

狂歌茅花集　四方歌垣撰　二冊

狂歌むさしあぶみ　四方歌垣　森羅万象両撰　二冊

狂歌續東西集　千秋庵撰　二冊

今古小說梅冊子　五冊　二代目風來山人編　近刻

狂歌觸前編　小本一冊　式亭三馬輯　出來

記刺者の自ら注釋中美押　全式冊

戲場訓蒙圖彙　式亭三馬著　全五冊出來

將棋袖珍手段

松花堂

芳野紀　橘千蔭大人隨模

小野道風書秋萩帖　文嶺先生譯文

掌中書籍目錄　折本　一冊

平春海大人著　二十一代集英三千六人歌集

歌苑古顯類抄　全二十冊近刻

平春海大人撰　和字正濫古言清濁

假字拾要　全二冊近刻

尚書纂言　宋吳臨川註　洪範之部一冊

勝川春英　哥川豐國　両画

雅月菴 收

少亮花菴絶月

藏本